

Surrealism and Its Development
Max Ernst and Kiro Uehara - Guest Artist: Jan Svankmajer -



上原木呂「眼珠の踊り：自分の復活を知り知になった。」2003年 コラージュ（フォトコピー）

シュルレアリスムとその展開

マックス・エルンスト 上原木呂 特別招待：ヤン・シュヴァンクマイエル

2016年10月15日(土)～2017年4月9日(日)

《企画・主催》 一般財団法人 Karuizawa New Art Museum
《後援》 長野県、長野県教育委員会、軽井沢町、信濃毎日新聞社、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、軽井沢新聞社、軽井沢ニュース舎、FM軽井沢、KIAC（軽井沢国際芸術文化都市推進協議会）



A.



B.



C.

シュルレアリスムとその展開

マックス・エルンスト 上原木呂
特別招待：ヤン・シュヴァンクマイエル

2016年10月15日(土) ~ 2017年4月9日(日)

第一次世界大戦終結直後に生まれたシュルレアリスムは、あらゆる存在を理性・道徳から解放しようとし、マックス・エルンスト(1891-1976)は、解放された存在同士がひとりどりで引き寄せ合い、新たなオブジェとして結びつく瞬間を目撃し、その鮮烈なイメージを“コラージュ”に焼きつけました。

今回、エルンストの“コラージュ・ロマン”第1作『百頭女』(1929年)初版のフルセットを本邦初公開します。書物の挿絵といった、生活空間の中にモノとして実在するイメージが解体・再構築を繰り返す。現実の記憶との不思議な再会の場を作りあげます。

若くして瀧口修造と出会い、シュルレアリスムに関わった上原木呂(1948-)は、特にエルンストのコラージュ・ロマンに影響を受け、切り貼りや手描きの痕跡を残す『眼球國譚』(2003年)を制作します。コラージュの表層を目で触れれば、次々と姿を変える女主人公との遭遇の実感を覚えることでしょう。その後、上原は極彩色のコラージュ連作の制作に移りました。今回、コラージュ作品から現在取り組んでいる抽象表現主義絵画まで展示し、上原の幅広い画業を紹介します。特別招待として、チェコのシュルレアリスト、ヤン・シュヴァンクマイエル(1934-)の映像作品とコラージュ、版画を合わせて展示します。映像作品では、触覚に訴える確かな物質感をもつオブジェをコマ撮りし、操ることで、オブジェがうごめき、私たちの視覚を揺り動かします。シュルレアリスムによって培われた、既成の概念にとられない自由自在な思考による、三者の多岐に渡る表現をご覧ください。



D.



E.

- A. マックス・エルンスト『百頭女』より
《ジェルミナル、私の妹、百頭女。(場面の奥、檻のなかには、永遠の父。)》1929年
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2016 C1151
- B. 上原木呂《アングルとエルンスト・ヘッケルのための変奏曲とフーガ3》2010年
- C. 上原木呂《時の万華鏡1：大漁》2009年
- D. 上原木呂《こんにゃくアート ベタンベタン》2016年
- E. ヤン・シュヴァンクマイエル《映画『サヴァイヴィングライフ』のためのコラージュ》2009年
- F. ヤン・シュヴァンクマイエル《木版画No.1》2011年



F.

一般財団法人

軽井沢ニューアートミュージアム

〒389-0102

長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1151-5

tel.0267-46-8691/fax.0267-46-8692

KARUIZAWA
NEW ART MUSEUM
Whitestone Art Foundation

- 《開館時間》 10時～17時 ※入館は閉館30分前まで
- 《休館日》 火曜日 ※火曜が祝日の場合、翌日休館
- 《入館料》 一般1000円、高大生・65歳以上800円、小中生500円
※20名以上の団体で来館の場合、各観覧料の300円引き
※未就学児無料、障がい者無料(付き添いの方は1名につき半額)
- 《所要時間》 電車でお越しの場合：JR軽井沢駅北口より旧軽井沢方面へ徒歩約8分
車でお越しの場合：碓氷・軽井沢ICより車で約20分
- 《駐車場》 第1、第3駐車場 無料30台収容

